

若狭武田氏関連年表

年号	西暦	記事
永享 12	1440	大和の陣において、武田信榮が若狭守護一色義貫を謀殺。代わって若狭守護となる。
同	1440	若狭守護武田信榮没。武田信賢が若狭安芸守護となる。
嘉吉 1	1441	若狭士一揆。一色氏残党ともに小浜が占拠される。丹波細川、近江朽木の助勢を得て奪還。
康正 1	1455	武田信賢が商船を明に遣わす。
応仁 1	1467	応仁の乱勃発。武田信賢が東軍の中心将として活躍。領内小浜では一色残党を退ける。
応仁 2	1468	武田信賢が若狭に城を築くことを京に伝える。
文明 3	1471	若狭守護武田信賢没。武田国信が若狭安芸守護となる。
文明 18	1486	一色義直の禁裏御料小浜の代官停止。替わって武田国信に与えられる。
延徳 2	1490	若狭安芸守護武田国信没。武田元信が若狭安芸守護となる。
永正 2	1505	武田元信が丹後侵攻。一色義有と争う。
永正 4	1507	武田元信が丹後侵攻。一色義有と争う。
永正 16	1519	若狭安芸守護武田元信剃髪し佛国寺に隠居する。武田元光が若狭守護となる。
大永 2	1522	武田元光、日蓮宗長源寺を向島に移設し居館を造営。 <u>後瀬山城を築城する。</u>
大永 7	1527	京都桂川の戦いにより武田軍大敗。多くの家臣を失う。
天文 4	1534	武田元光、丹後田辺城を攻める（天文5年まで）。若狭大干ばつ。
天文 7	1538	重臣粟屋元隆の叛乱。武田信豊が谷田部谷田寺にて鎮圧する。武田信豊が若狭守護となる。
天文 22	1553	武田信豊が丹波内藤氏の要請を受けて丹後に侵攻。若狭大干ばつ。
永禄 1	1558	武田信豊と子の武田義統が争う。
永禄 2	1559	武田信豊と武田義統が將軍家の仲介で和談。武田義統が若狭守護となる。
永禄 9	1566	足利義秋が武田義統を頼り若狭に赴く。
永禄 10	1567	武田義統没。武田元明が若狭守護となる。武田信方が当主家に叛く。
永禄 11	1568	越前朝倉氏が若狭に侵攻。武田元明を拉致する。
天正 2	1574	丹羽長秀が若狭を領する。
天正 15	1587	浅野長吉が若狭を領する。
文禄 2	1593	朝鮮の役のため小浜豪商組屋が兵糧運送。木下勝俊が小浜に、木下惟俊が高浜に入る。
慶長 5	1600	関ヶ原の戦い。京極高次が若狭国を領する。
慶長 6	1601	京極高次、後瀬山城を廃して雲浜の地に小浜城の築城を開始する。



国史跡 後瀬山城跡

指定年月日
 ✓ 平成 9 年 5 月 23 日 国指定
 平成 28 年 10 月 3 日 追加指定

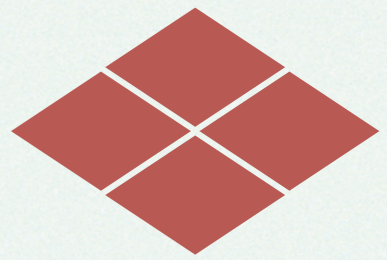
指定面積
 ✓ 362,589.89 m²

アクセス
 ✓ 小浜駅から徒歩 10 分の愛宕神社
 社務所より登山（主郭まで約 20 分）

観光のお問合せはこちら

若狭おばま観光案内所
 (JR 小浜駅目の前)
 ☎ 0770-52-3844

発行：小浜市文化観光課
 制作：(一社)若狭おばま観光協会 2025.1



国史跡

のちせやま

後瀬山城跡



中世港湾都市 小浜を望む



日本遺産

若狭守護 五代 武田元光公

後瀬山城跡模式図



発掘された守護館（建物跡）



発掘された守護館（堀跡）



主郭の石垣



後瀬山城を築城した
若狭守護 五代 武田元光公
(武田元光画像・発心寺所蔵)

後瀬山城 - 港湾都市を望む山城 -

後瀬山城跡は、大永2年(1522)に若狭守護武田元光により築城されたことが文献等から明らかになっています。後瀬山の山麓にあった日蓮宗長源寺を南川河口の向島に移設し、ここに居館を構えるとともに戦国の世にならった山城を山の稜線を中心に構築します。城郭北西部に畝状堅堀(うねじょうたてぼり：防御用の設備)や大規模な堅堀を配し、西部への防御を密にした遺構配置を行っており、これは武田氏が若狭守護に任命されて以来、度々確執を招く丹後一色氏を意識していることが見受けられます。東稜線上と北西稜線上に配置される連郭郡は切岸により区画されており、主要な部分において堀切を用いています。これらの連郭郡は、谷の横道と形容される連続した連絡通路により連結されており、情報交換施設として注目される遺構です。

山麓の守護館については、古絵図などによる復元から概ね方1町の区画が想定されます。また、周辺には、石垣町や文殊丸町などの町名とともに、多くの方形区画を復元することが可能な地籍があり、小浜西部地区に居館群があったことが想定されます。また、東南麓には、武田元光が隠棲する別所谷に発心寺が現存し、武田元光画像2幅(福井県指定文化財)などを所蔵されているほか、武田元光の墓所として立派な宝篋印塔(ほうきょういんとう：供養塔)がいまも発心寺により嚴重に祀られています。

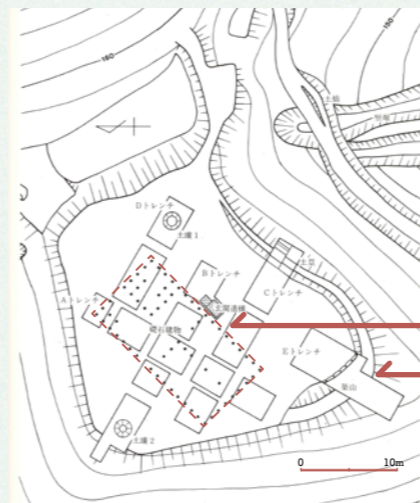
永禄11年(1568)、越前朝倉氏の侵攻により武田元明が拉致されて以降、若狭守護武田氏の居城であった後瀬山城は一時荒廃しますが、織豊系武将である丹羽長秀の若狭拝領以降、城郭の再整備が実施されたようで、現在主郭周辺に残る石垣は当該期に築造されたものと考えられています。この後、浅野長吉、木下勝俊に引き継がれ、慶長5年(1600)関ヶ原合戦の功により若狭一国を領することになる京極高次が入部します。しかしながら、後瀬山城は近世的な城郭としての発展を閉ざした城郭であり、翌慶長6年から京極家による小浜城の築城が開始され後瀬山は廃城となります。

元和元年(1615)には、京極家および京極高次の妻である常高院により、主郭部分に愛宕神社が観請され、現在も厚い信仰を受け7月に壮大な火祭りが実施されています。山麓には常高院菩提寺の常高寺もあります。

発掘された山上御殿 - 文芸に秀でた若狭武田氏 -

昭和63年、主郭北西部の曲輪において遺構の確認調査が実施されました。この曲輪の規模は主郭に次ぐ広さを有し、調査前には城郭における主要施設があったことが想定されていました。遺構としては、城郭全体に見られるように西方への防御を意識しているのか、この方向にL字の土塁を配しています。また、主郭への切岸(石垣が一部残存)との境界については堀切のように区画しており、土橋により入り口を構成しています。この曲輪の調査では、柱間数東西8間、南北4間で玄関に敷石の遺構を持つ礎石建物跡が検出されています。また遺物や遺構の状況から、織豊期の頃まで使用されていたことも判明しました。

特徴的なのは、土塁角に造られた張り石の築山と、検出された多くの茶器です。これらのことは、この曲輪が武田氏の時代から織豊期にかけて、文化的側面が強い場であったことを証明するものと言えるでしょう。小浜湾の風景を賞で、築山背後にかかる月を眺めながら、歌を詠み茶の湯を愉しむ山上御殿を想像するに難しくありません。



二の丸山上御殿礎石建物跡



二の丸山上御殿築城遺構



後瀬山城跡出土 ①瀬戸美濃焼 ②外国産陶磁器

山下の守護居館 - 湊町小浜を掌握する -

日本海屈指の港町として成立していた若狭小浜。港を掌握することが若狭国を掌握することと言い換えることができるほどの国際港であり、日本海の物資を集積する京都の外港と言えるような存在でした。戦国時代には、和泉の堺か若狭の小浜かとも例えられるほどでした。武田氏は港に開かれた町に寄生するように後瀬山城を築城し、港の利益を吸収するとともに、遠く中国の明や朝鮮半島にも使者を送っています。

守護の居館は港町の後背地に位置し、旧町名から推測すると現在の「小浜西組」一体に武家屋敷群を配置していたと想定されます。調査により検出された堀跡は、壮大なもので、「堀を二重に構え、町中不自由なり」という商人の嘆きを記した記録も残されています。



御城印

後瀬山城御城印

1枚 300円

若狭おばま観光案内所
福井県小浜市駅前町6-1
開館時間 9:00-18:00
(冬期は17:00まで)
休館日 年末年始